

第41回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	中島ゼミⅡ	チーム名	チームNしまKたか		
タイトル	「原発、いる？ いらん？」				
テーマ群	g) その他				
メンバー	國澤隼平 中田弥生	柴田伸介 宮永真伍	高田裕也 村上篤史	辻麻奈美 柳井孝太	鶴谷梨佳 藪野真由実
研究計画内容	<p>〔概要〕</p> <p>2011年3月11日、日本を未曾有の大震災が襲った。甚大な被害をもたらしたこの大震災後、日本に突き付けられた最も深刻な課題の一つが、原子力発電所問題である。地震、そして津波により被災した福島第一原子力発電所をはじめ、多大なリスクを伴う原子力発電所存続の是非が問われている。本研究は、この問題に対し、経済学的側面からコストに視点を当て、原子力発電所の必要性を説いていくものである。</p> <p>〔内容〕</p> <p>原子力発電所の必要性については、賛否両論数多くの意見が飛び交っているが、この問題に対する明確な答えは存在しないと考えている。それは、人々の感情論も含まれているからである。そこで本研究では、感情論はさて置き、発電に掛かるコストだけに注目し、原子力発電と他の発電を比較する。そして、それぞれの発電でのコスト試算結果が、家計・政府・企業の三主体にどのように影響を与えるかを分析し、より低コストの発電パターンを見出すことにより、原子力発電所の必要性を吟味していく。ここでの原子力発電に掛かるコストについては、今回の大震災のような災害が生じた場合に掛かるコスト、損害賠償や除染費用等を含むことにする。</p> <p>〔成果〕</p> <p>本研究により期待される成果は、コスト試算から得られた見解と、人々の感情論との間に相違があるのかを明確にすることである。そうすることにより、今後の原子力発電所問題の行く先を見ていきたい。本研究が導き出した1つの答えを、今後の原子力発電所問題を考察するにあたっての1つの指標として見て頂けたら光栄である。</p>				